

令和3年度

オンライン講座

第19回

まちづくり  
IV

19

2021  
12月  
No.19

熱海ブルーノ・タウト連盟

# タウト塾@熱海

## 熱海温泉誕生秘話 後編

熱海温泉来由を紐解く



# 大政奉還

1867 (慶応3) 10-14

明治天皇

1868 (明治元) 9-8

徳川慶喜



江戸幕府最後の将軍、徳川慶喜の肖像写真 (福井市立郷土歴史博物館)



〔明治天皇〕

明治期の熱海は、同地を海浜保養地に読み替えようとする西洋的な衛生思想、また維新後の新政府関係者や内務竹・宮内省などによる支援などを背景して、湯治場から保養地、観光温泉地へと再編されていきました。

# 明治・大正・昭和初期

明治期の熱海は、同地を海浜保養地に読み替えようとする西洋的な衛生田心想事成、また維新後の新政府関係者や内務省・宮内省などによる支援などを背景に、湯治場から保養地、観光温泉地へと再編されていった。

同時期、大湯利用に関する支配者的集団であった湯戸の特権性が解休され、大湯以外の利用者や、他の地からの新興営業者による温泉旅館の営業開始されたことでした。

旅館や別荘の新築用地として、東京や横浜など他年の人々による土地所有も盛んでした。

しかし大湯の営業権（湯株）は近代にも存続し、温泉をめぐる近代熱海の社会は、湯戸・七湯利川者・新興旅館・別荘所有者らの利害関係が絡み合いながら進んでいった。

## 芽吹き

- 内務省・宮内省主導
- 保養地、観光温泉地へ

## 解体

- 大湯の枯渇
- 湯戸特権の解体

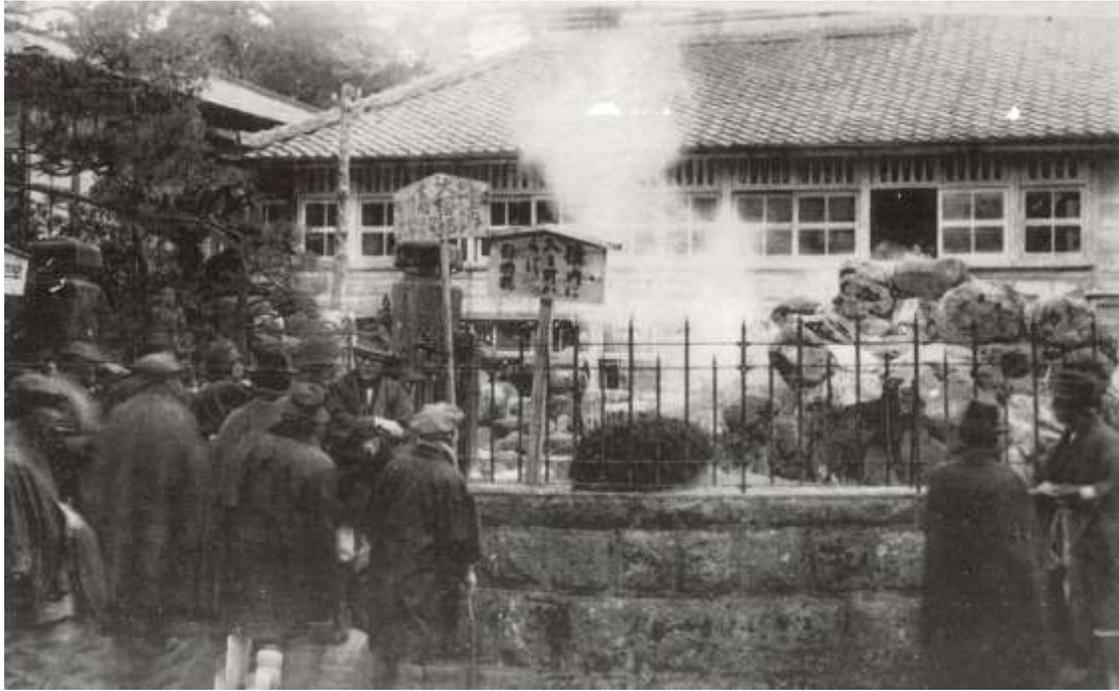
## 振興

- 大湯以外の業者新興
- 他都市からの参入

## 開発

- 大湯温泉地区の衰退
- 駅前振興温泉開発の振興

# 日本で初めての温泉療養施設 唵瀧館



**岩倉具視**

明治17年、熱海に温泉を療養につかう為の施設である「唵瀧館」が岩倉具視の強い意見の下で完成した。ドイツなど各国を視察し造られた。日本で初めての温泉医学、療法が導入されてできあがった画期的な温泉施設である。翌明治18年には、治療の為の屋外運動施設として「熱海梅園」が整備され一体利用が図られた。



## 噓氣館の構成

噓氣館は人浴施設だけではなく、主に肺病患者への吸入療法による温泉療養施設として運営されていた。

間歇泉大湯の蒸気を利用した施設で、ドイツからの機器を導入し、室内の温泉蒸気、吸入器を使っでの治療が行われてた。

大湯が沸騰するたび、その蒸気を館内の吸気室に導き、患者はその部屋にパイプをつけて蒸気を吸入した。

加えて、遊泳場やビリヤード場が併設されるなど、西洋の温泉医学、施設構成の導入がみられる。

# 噲汽館の保養公園としてつくられた熱海梅園



長与専斎

「温泉がよく病気に効くのは、ただその中に含まれている塩気や鉄精にばかり頼らず、適当な運動をするからである。もし、一日中室にいて、温泉に浸かっていたら飽きもし、疲れもして、養生にならない。……」  
(「熱海風土記」より)



茂木惣兵衛

熱海梅園は、梅を愛でながら、初川の清流や、軽い傾斜路をゆっくりと歩き運動する為の保養公園

## 保養・療養

明治18年

噲汽館・温泉療養施設  
岩倉具視・長与専斎  
土地：今井半太夫

一対

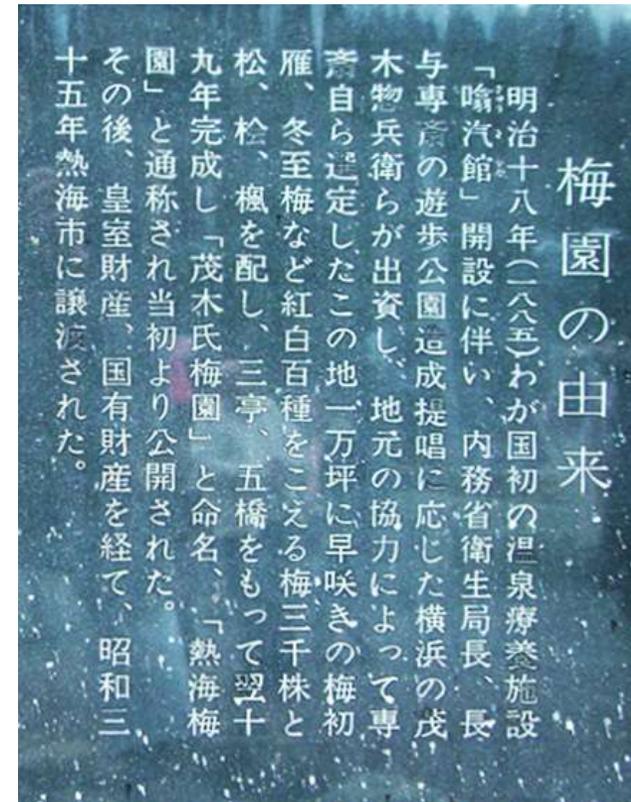
明治19年

発案・長与専斎（衛生局長）  
出資・茂木惣兵衛 等  
土地・地元（1万坪）

# 熱海梅園

熱海梅園は、内務省の長与専齋が、「温泉がよく病気に効くのは、ただその中に含まれている塩気や鉄精にばかり頼らず、適当な運動をするからである」（「熱海風土記」－梅園記より）と、提唱したことから1886年（明治19年）に開園しました。

－温泉保養地としての芽生えを支えた熱海温泉文化の重要な一端です。－



# 長与専齋

長崎生まれ。医師・衛生行政家。父は肥前大村藩医。安政元年（1854）大坂の適塾に入門し、のち塾頭となる。万延元年（1860）長崎に赴き、ポンペについて蘭医学を学ぶ。明治4年（1871）上京し、文部少丞となり岩倉遣欧使節団に随行して渡欧、西欧の医学教育を視察、調査。6年（1873）に帰国後、文部省医務局長。8年（1875）内務省衛生局の初代局長となる。司薬場の建設、医制の制定、防疫・検疫制度の導入など、わが国衛生行政の基礎を築いた。



長与専齋略歴

天保九年（二八八）長崎県大村の藩医の家に生れ、十六歳で大阪の蘭学塾、緒方洪庵の「適塾」に入門、のち長崎で直接蘭医に学び長崎医大の前身、精得館、長崎医学校の学頭をとめ近代医学の導入を図った。明治四年岩倉具視の米欧使節団に随行、国民の健康保護、医事行政、諸施設に深く啓蒙され、明治六年文部省初代医務局長のあと自ら案出した「衛生」のことはを用いた内務省初代衛生局長となり、在任十八年わが国医制、公衆衛生の基礎をつくった。明治三十五年（一九〇三）死去。

昭和六十年一月吉日 孫長兵衛夫



# 東京第一衛戍病院熱海分院

(国際医療福祉大学病院)

温泉医療は、日露戦争後、傷病兵の療養施設として衛戍病院の分院として継続した。

外傷性の疾患については温泉浴と按摩法を、胸膜炎など内科患者については気候療法を中心に、温泉浴と運動法を用いて療養。患者らは構外への散歩が認められた。これらは、近代熱海の療養拠点として基となっている。

戦後、分院は国立東京第一病院熱海分院となり、国立熱海病院をへて国際医療福祉大学病院となっている。



# 噲瀆館が宮内省にうつされ御用邸竣工

明治18年噲瀆館が開設され、翌19年に熱海梅園開園して翌年、噲瀆館関連が皇宮付属となった年に熱海御用邸が竣工した。大湯の温泉がひかれている。



# 泉都熱海けふぞ市位を名乗る

昭和12年4月1日

丹那トンネルの開通に伴って観光客で賑わう旅館や分譲地の拡大が温泉の乱開発をまねくなかで大湯の枯渇をまねくなどの時代を背景に、昭和12年に熱海町と多賀村が合併し熱海市誕生しました。



泉都熱海の誕生



# 熱海駅開業時に始まる駅周辺区の発展

温泉地区 銀座通り周辺の温泉地区  
駅周辺区 熱海駅を中心とした地区



# 雨宮敬二郎と20人の仲間達

雨宮敬次郎「軽便鉄道王」

明治15年（1882年）頃、結核療養で熱海に湯治に来た雨宮敬次郎は、当時人力車しかなかった往復の交通に不便と苦痛を感じ、熱海の有志と人車鉄道の建設を計画、明治23年（1890年）に軌道特許が交付された。

その後、当初予定していた岩崎財閥（三菱）の資金援助が得られず資金調達に苦勞したが、安田財閥の融資を受けた。豆相人車鉄道株式会社は  
明治28年（1895年）に熱海－吉浜間10.4 km  
明治29年（1896年）吉浜－早川間14.4 km 全通



# 熱海の交通発展史

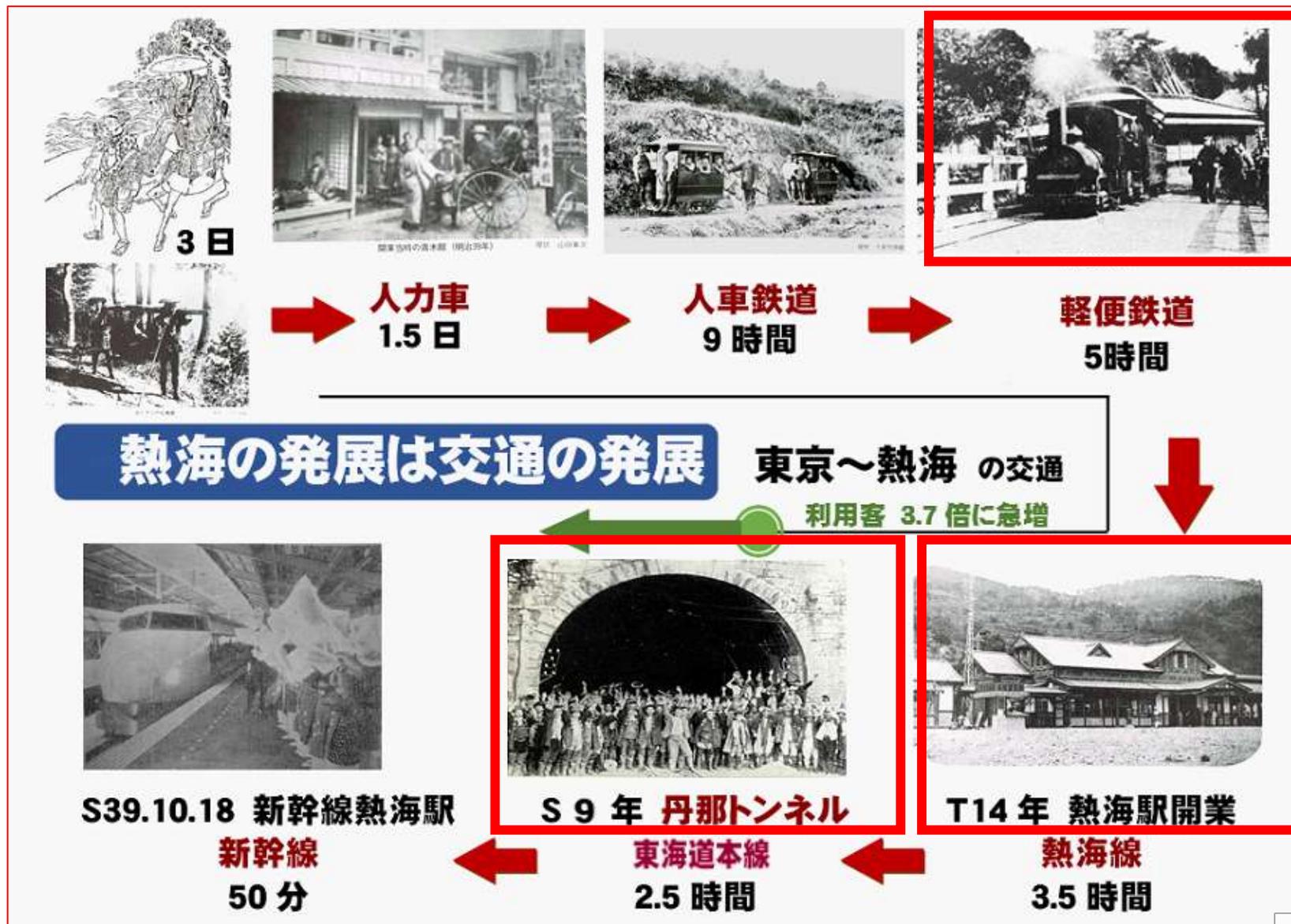
熱海は江戸時代より、全国の温泉地でも別格「行事」として人気の温泉地でした。

また明治には、政治家を文学者など多くの著名人の人気の場所となり発展を遂げてきたのですが、「交通の不便さ」が常に付きまってきました。

熱海の発展の歴史は、交通との闘いといっても過言ではありません。その為、人車鉄道、軽便鉄道など多くの手段をとってきました。

そうした中でも、大正から昭和初期にかけての「熱海駅開業」と丹那トンネルの開通は特別でした。

この講座では、熱海の交通を軸に街の発展、東山文化を見て参ります。



# 熱海駅開業

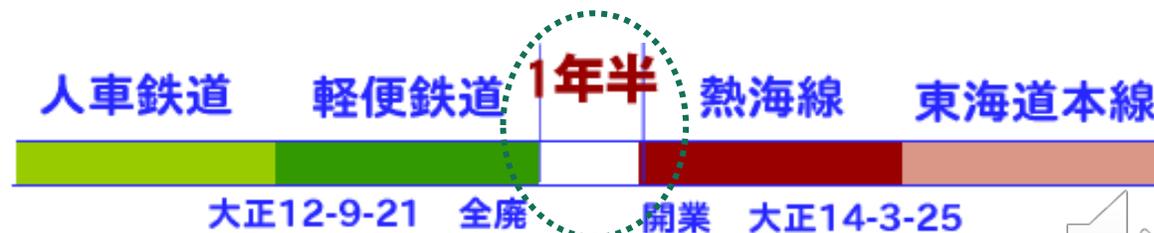
1925年（大正14年）3月



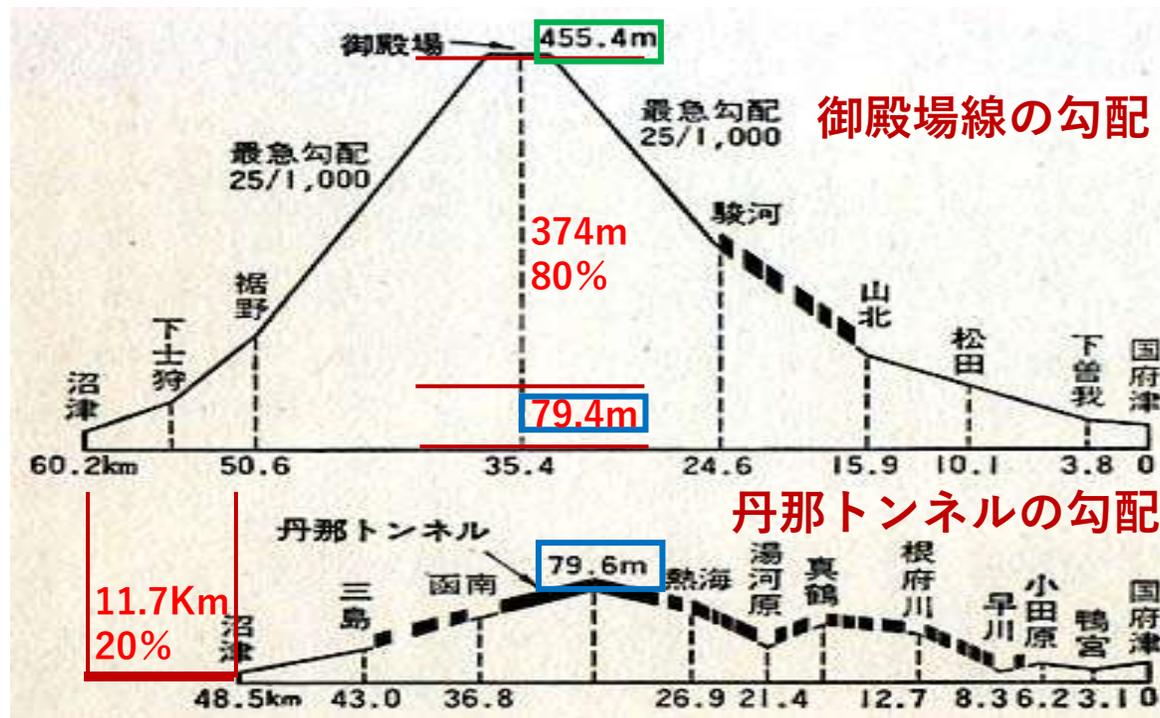
- 東海道本線は、国府津から御殿場線で沼津につながっていた
- 小田原・熱海では、豆相人車鉄道→軽便鉄道により終点熱海つながっていた。
- 大正12年9月の関東大震災により壊滅、全廃。
- 大正14年3月 国府津から熱海をつなぐ熱海線開通



熱海駅開業は、軽便鉄道の全廃からまでの1年半後に完成。開業は多くの人々に喜ばれた。



# 丹那トンネル決定・工事



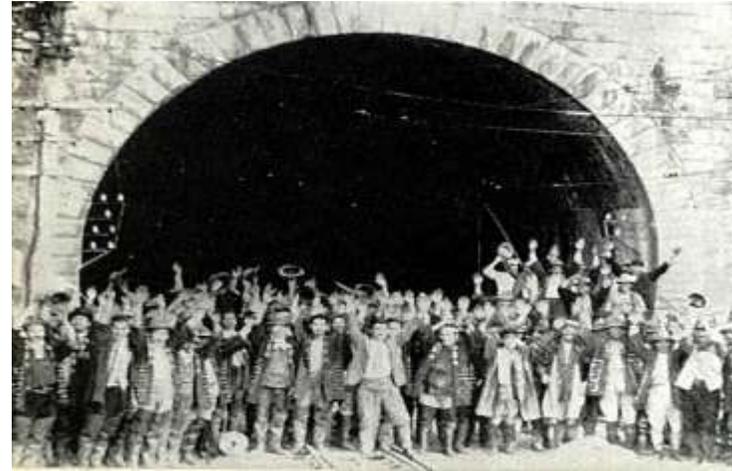
- 御殿場線を東海道本線としていたが、勾配がきつく輸送に大きな障害をもっていた。
- 熱海線は勾配は80%減となり距離も20%強減となった
- そうしたことから、熱海から函南間を開通して通す案が採用された
- 大正7年着工し昭和9年完工した
- 初工期は7年であったが、多量の湧水から16年となった
- 大事故は4回、日本の鉄道トンネル工事史上、最大の難工事であった。

## 難工事

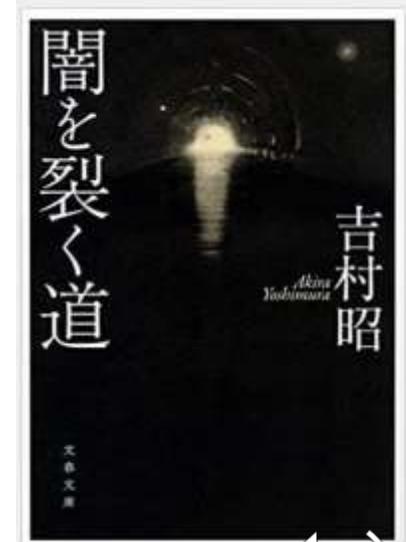
工期：7年 → 16年  
 予算：700→2500万円  
 - 当時予算 -  
 犠牲者：67名  
 - 水、落盤犠牲者 -  
 延べ人数：250万人  
 長さ：7804m



# 丹那トンネル開通 殉職碑 昭和9年12月



## 丹那トンネル殉職碑



吉村昭著『闇を裂く道』

# 丹那トンネルの2つの恩恵

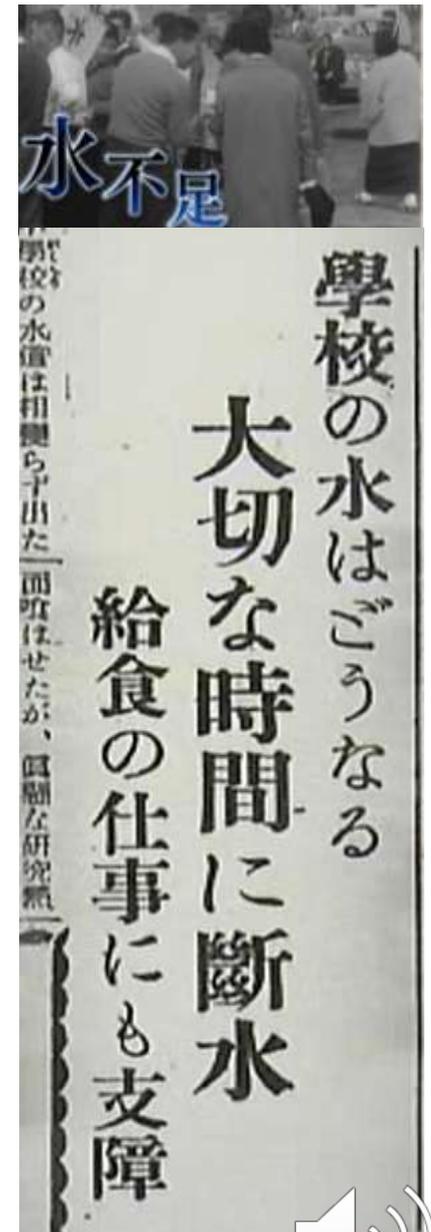
難工事をまねいた大量の丹那湧水

第一恩恵  
多くの  
観光客

急激な  
水不足

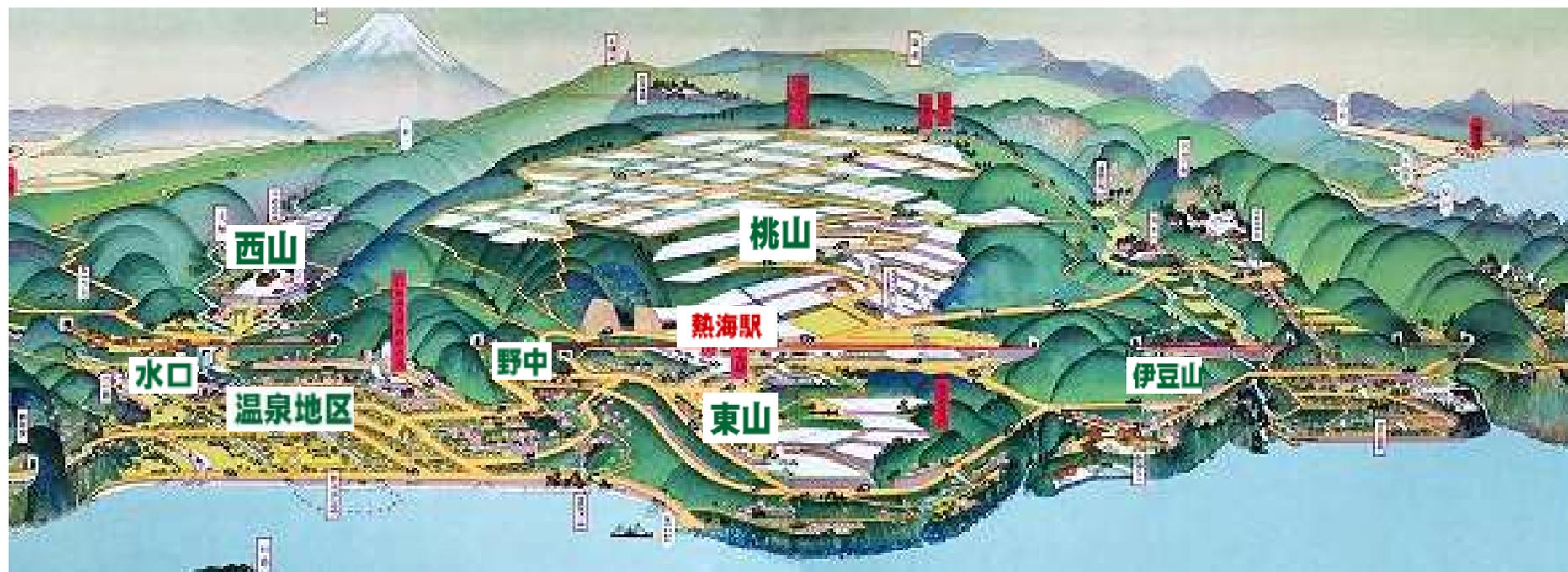
第二恩恵  
大量な  
生活水

線名	乗客数	降客数	和暦
軽便鉄道 小田原～熱海	1.7万人	1.9万人	大正12年調べ
熱海線 東京～熱海	28.7万人	37.1万人	大正14年調べ
東海道本線 丹那トンネル開通	191万人	162万人	昭和10年調べ



# 東山・桃山の土地分譲（温泉付き）開発

- 東山の地は以上のような交通の大きな転換期を背景に生まれてきました。
- 大正10年 東京に本拠をおく竹内同族会社が桃山・東山（潮見崎）の土地分譲を開始  
これは開通7年後を予定していた丹那トンネル工事着工の3年後
- 開発と同時並行して、来宮神社の位置する西山、温泉地区の間の野中地区（現咲見町）、水口付近、伊豆山地区なども開発が盛んになる



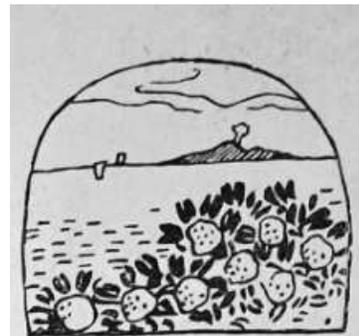
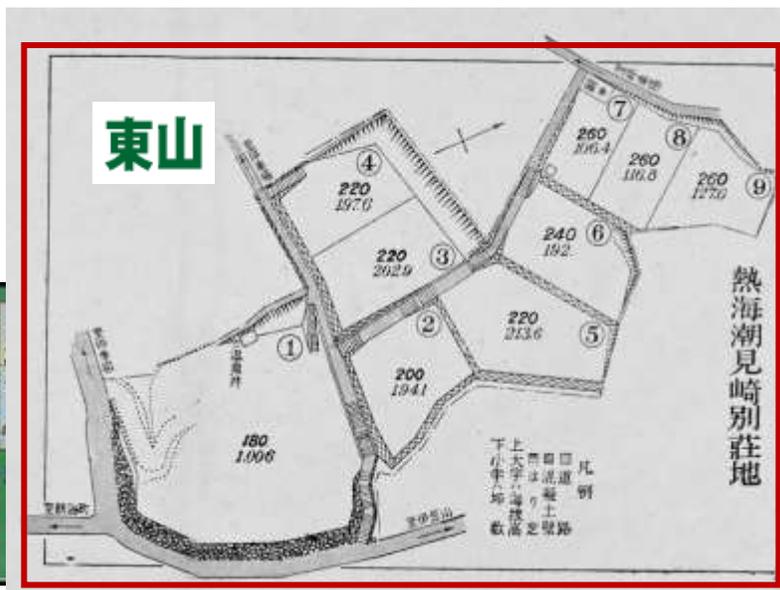
# 熱海 桃山潮見崎 文化別荘地分譲 案内

竹内同族会社による（大正14年）

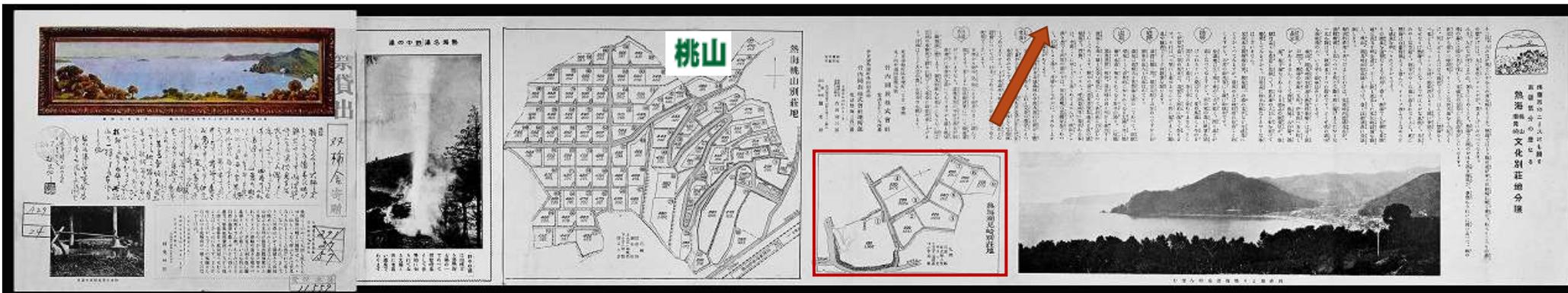
「熱海潮見崎・桃山文化別荘地分譲」パンフレット。

両面刷りで、坪内逍遥・双柿舎からの図書館への寄贈品。奇麗なかたちで残っている。

NHK 「ブラタモリ」にも説明用で登場



佛蘭西のニスにも勝り  
南國氣分の豊なる  
熱海潮見崎山文化別荘地分譲



# 東山（潮見崎）分譲地 と熱海地区の分譲地

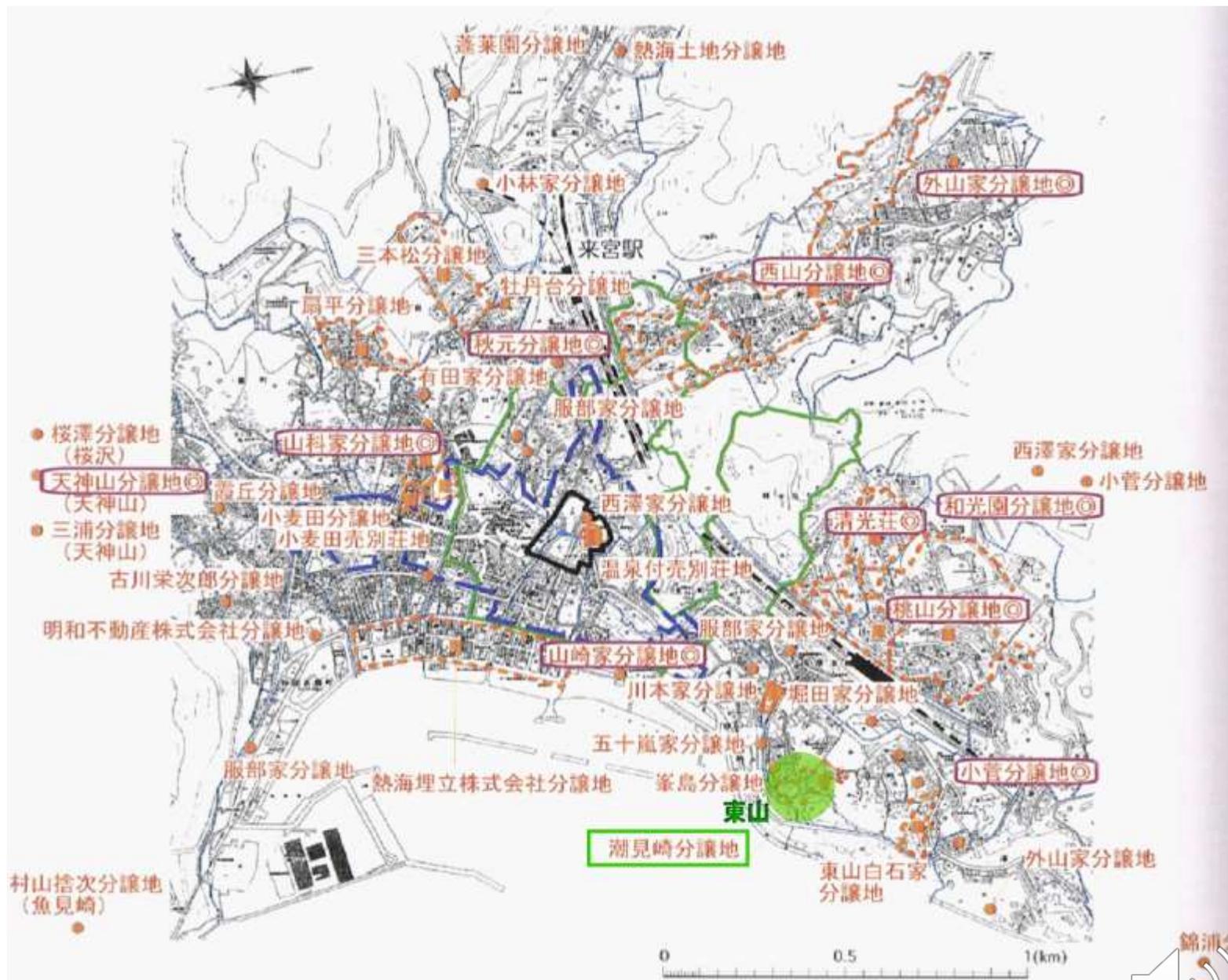
凡例

- : 開発禁止区域
- : 近世温泉町域
- : 大正末期の市街地域

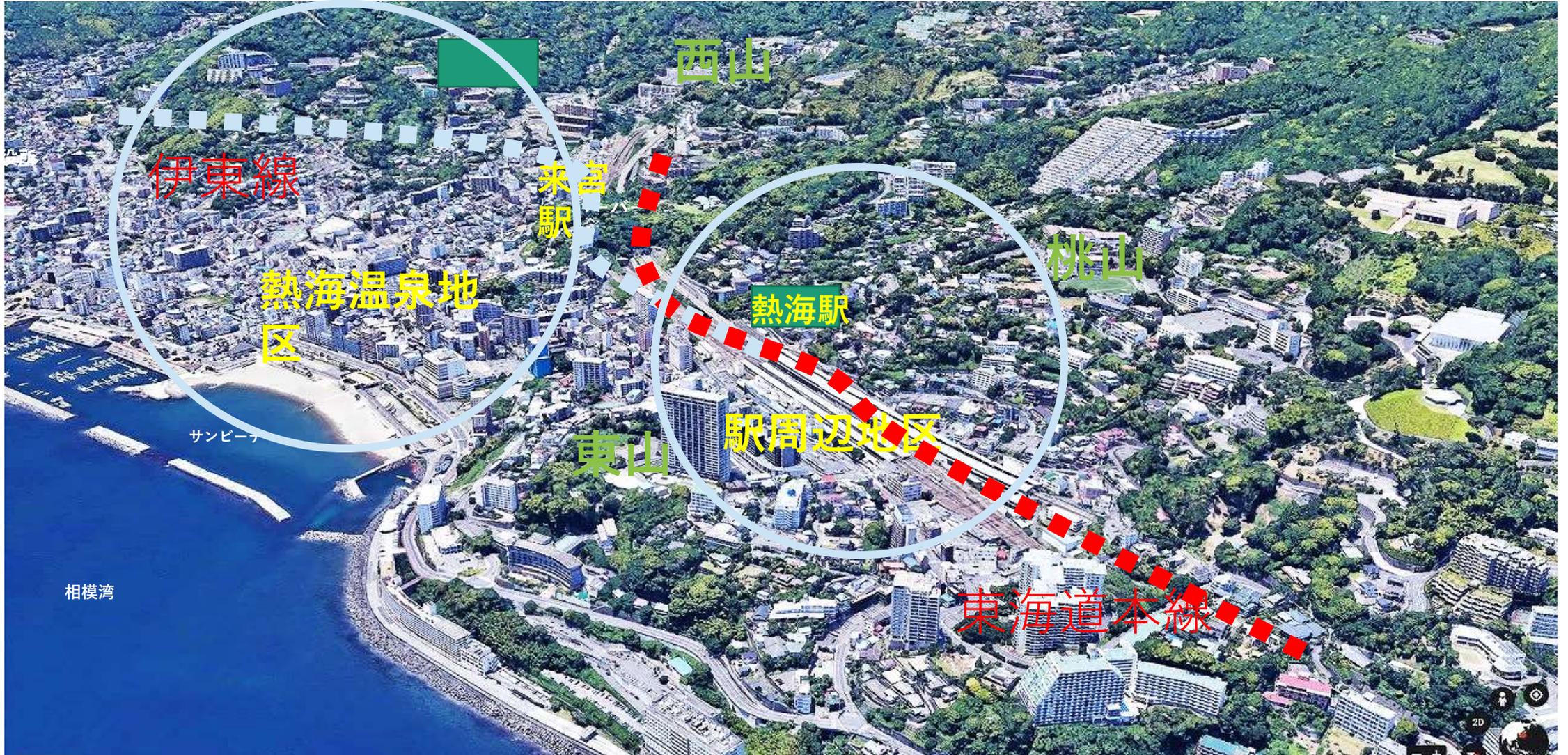
図3 昭和初期の分譲地分布 (筆者作成)

- : 分譲地
- : 分譲地 (おおよその位置を示す)
- : 独自温泉源の所有が確定する分譲地

出展・熱海温泉誌



# 現在の熱海と東山



# 東山全景 東山トリオ（旧日向別邸・東山荘・海峯楼）

## 現在の東山全景

- 標高約90m
- 駅約20m高い場所。
- 135号線、駅前道路に囲まれた丘
- 頂きに3つの施設が隣接し合い「東山トリオ」を構成
- 他昭和の建物が複数存在し、昭和の浪漫をかもしています
- 高層マンションはかつての学校跡地につくられたもの



# 東山トリオ 時を繋ぎ、時を超えて佇む

東山の小さな丘の上には、三つの個性的な施設が肩を並べて建っています。またその周辺にも熱海の昭和レトロが・・・。

今回は東山が生み育んできた個性豊かな建物を中心に紐解きます



**ATAMI海峯楼**

1997・H7  
設計：隈研吾

建築家つながり

**旧日向家熱海別邸**

1936・S9  
設計：ブルーノ・タウト  
国重要文化財

時代つながり

**東山荘**

1933・S8  
岡田茂吉  
国登録有形文化財

ここ熱海の東山(春日町)は、「産み・保持・進化」させるチカラをもった不思議な地域！ 熱海ブルーノ・タウト連盟

# 上屋



竣工時の外観

(『住宅建築図集』 株式会社清水組1939年)





# 摩訶不思議なる幻の地下室



とうざんそう

# 東山荘



相模湾を望む敷地北東寄りに本館が位置している。

昭和8年東山荘の完成のころ、日向利兵衛は、隣接する土地を尾崎男爵より譲り受け、渡辺仁に設計を依頼している。

戦前期における熱海の別荘開発と代表的な別荘建築が集中する貴重な歴史的地区の開発の始まりの時代でした。

設計施工・清水組 敷地面積 1000坪



とうざんそう

# 東山荘

## 東山荘 配置図

— 全7棟 国の登録有形文化財 —  
平成28年（2016年）



東山荘は、昭和8年、第一銀行頭取であった石井健吾氏の別邸として建築されました。その後、所有者が山下汽船（現・商船三井）の創業者山下亀三郎氏に移り、昭和19年に世界救世教・岡田茂吉氏が譲り受け熱海市・旧東山（現春日町）の地名を取って「東山荘」と命名されました。平成28年（2016年）に、昭和初期から今日までの歴史を孕んだ近代和風の別荘建築として貴重であると評価され、国の登録有形文化財（建造物）に指定されました。



石井健吾氏  
第一銀行頭取



山下亀三郎氏  
商船三井創業者



岡田茂吉氏  
世界救世教



- |   |  |  |  |  |
|---|--|--|--|--|
| <span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color:orange; border:1px solid black;"></span> 第一期 昭和8年 第一銀行3代頭取・石井健吾      | <span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color:lightblue; border:1px solid black;"></span> 1正門 | <span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color:lightblue; border:1px solid black;"></span> 2離れ | <span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color:lightblue; border:1px solid black;"></span> 3本館 | <span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color:lightblue; border:1px solid black;"></span> 4物置 |
| <span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color:lightblue; border:1px solid black;"></span> 第二期 昭和14年 山下汽船初代社長・山下亀三郎 | <span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color:yellow; border:1px solid black;"></span> 5別館    | <span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color:yellow; border:1px solid black;"></span> 6茶室    |  |  |
| <span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color:lightcoral; border:1px solid black;"></span> 第三期 昭和19年 世界救世教教祖・岡田茂吉  | <span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color:lightcoral; border:1px solid black;"></span> 7蔵 |  |  |  |

# ATAMI海峯楼

海峯楼は、熱海市春日町8-33、旧日向別邸に隣接した地に1995年（平成7年）03月に、ゲームメーカーのゲストハウスとして建設された。現在は、旅館として「ATAMI海峯楼」の名で営業される。

私のこの「水／ガラス」という作品の敷地は、そんなタウトの設計した「日向別邸」の隣でした。タウトの作品が熱海にあることも知らなくて、この建物の設計を依頼されて隣に建っていることを知ったときにはたいへん驚いた。ここでも僕は、せっかくタウトの隣なんだから縁側をやろうと思ったんですね。それも水の縁側をつくろうと考えた。

（東西アスファルト事業協同組合講演会 物質性とサイバースペースより）



## 占領軍の慰安地として熱海は

占領軍の慰安地として戦後の復興を後押しされた熱海は。

1950（昭和25）年の大火後「国際観光文化都市」をめざす。高度成長期以降さらに規模を拡大する旅館で働く女性たちや、上下水道など生活インフラの充実と市営温泉事業の艇開は、伊豆湯河原（泉）、伊豆山、熱海、南熱海（網代・多賀）の四地区に広がる熱海温泉郷の発展とその繁栄を支えた。



# 熱海での占領軍

## 米軍占領と熱海

GHQは敗戦と共に日本に置かれ、1952（昭和27）月まで約七年間、米軍の占領を受け米軍憲兵隊が駐屯。熱海ホテルと樋口ホテルが「進駐軍専」として接收された。石畳が当時の面影を残している



接收された熱海ホテル



残された石畳



## 占領軍の慰安地として熱海・糸川周辺

敗戦後の熱海市街地は、進駐軍の兵士などが糸川周辺を中心に訪れ、賑やかな復興を遂げました。そして退去後も歡樂観光はこのこり長年にわたり続き熱海をにぎわわせました。



昭和23年 糸川さくらまつり

熱海温泉誌より

# 熱海大火・熱海国際温泉文化都市（昭和25年）

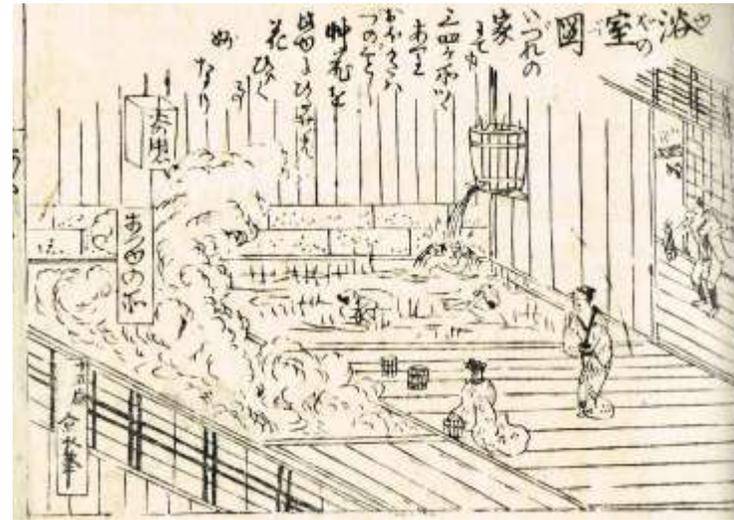


昭和25年4月13日出火し、強風で8か所に飛び火、同時火災979棟、1465世帯被災。損害55億円。市の1/4が焼失。市役所、警察署、消防署なども失い中枢機能壊滅。

県の「災害救助法」発動。

「熱海国際観光温泉文化都市」が公布され3年で復旧。





湯治場



健康保養地



観光地 (大衆→小衆)



観光地 + 保養地 (長寿社会型)

# ヨーロッパの温泉保養地をかいま見る |

ヨーロッパでは温泉の総合的活用を「健康保養地」という概念で集約される。

## 健康保養地

治療する、療養、保養のための滞在すること、温泉気候保養地などに中長期滞在して、療養・保養をすること。

ドイツ温泉協会では、健康保養地は、「地下物質（温泉、鉱泉、泥、ガス等）、海、気候などの自然条件が病気の治療・予防に適することが、科学的・経験的に実証されている場所」と定義しています。ヨーロッパ全体で健康保養地の人気は高く、全宿泊者数の約46%を占めています。

## ドイツの健康保養地の4分類

気候療法保養地 森林、山岳などの気候や地形要素を  
治療素材とする気候療法を行います。

- (1) タラソテラピー保養地 海岸で、海洋性気候要素を用いる海洋療法を行います。
- (1) クナイプ療法保養地 19世紀半ばに、S・クナイプ神父が創設した伝統的なクナイプ水治療法を行います。
- (1) 鉱泉・泥療法（温泉療法）保養地 温泉療法や泥療法を主として行います。



# ヨーロッパの温泉保養地をかいま見る II

## 健康保養地の保養、環境条件

### 【保養地の条件】

- (1) その土地に特有な治療素材と治療手段がある。
- (2) 気候条件や景色がよい。
- (3) 目的に沿った適切な保養・療養施設がある。
- (4) 治療効果が医科学的に証明されている (EBM) も測定。

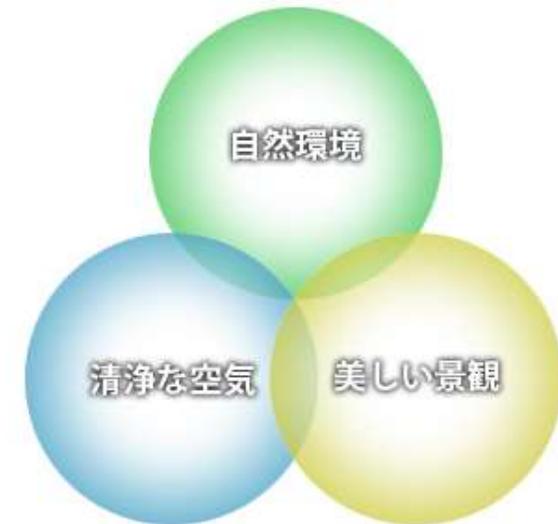
### 【環境の条件】

- (1) 工場や都市公害による汚染がない。
- (2) 騒音と交通公害から隔離されている。
- (3) 衛生上の配慮が十分にされている。
- (4) 専門の温泉気候療法医が常任している。
- (5) 訓練された有資格の専門療法師がいる。

健康保養地（クアオルト）の構成  
構成要素、長期滞在型地域となっています。

- ・テルメ（温泉施設）
- ・クアミッテルハウス（療養処方施設）
- ・クアハウス（保養公会堂）
- ・クアパーク（保養公園）
- ・トリンクハレ（飲泉所、：温泉を飲む場所）
- ・クリニック、ホテルや旅館

【必要要素】



令和3年度

オンライン講座

第19回  
まちづくり  
IV

19

2021  
12月  
No.19

熱海ブルーノ・タウト連盟

# タウト塾@熱海

熱海温泉誕生秘話 後編

熱海温泉来由を紐解く



No.19 END